

## 皮膚ガンおよび皮膚かいようの予防と治療

皮膚も他の臓器と同じようにお年を召していくと、皮膚ガンおよび皮膚かいよう（傷のようなもので、皮膚表面がなくなった状態）ができることがあります。

皮膚ガンを早めに発見するために、「いぼ」、「血まめ」、「ほくろ」、「しみ」、「あざ」が以前なかったところに出てきたり、急に大きくなったり、皮膚かいようになったりの変化を早めに見つけることが重要です。「オゾン層破壊」が取り沙汰される近年は日本人でも紫外線が原因の皮膚ガンが増えてきております。紫外線が原因とされる皮膚ガンには、有棘（ゆうきょく）細胞ガンや基底（きてい）細胞ガンや悪性黒色腫（あくせいこくしよくしゅ）などがあります。また最近増えつつある皮膚ガンにパージェット病や白血病の種類のガンがあります。それらについて概説します。更に少し専門的になりますが、紫外線が原因の皮膚ガンが起こる理由を白人と黒人との差を調べることでできるだけ詳しく説明します。

話しが変わりますが、皮膚かいようにはどのようなものがあるかについてお話します。外からの何らかの障害でできるだけでは

なく、血管の病気や糖尿病や感染症（さまざまなバイ菌が傷につくこと）や皮膚ガンが隠れていることがあります。その原因を治療していかないとはいけません。ただし、なかなか治らないタイプの皮膚かいようには、共通点も多く見られます。特に私が精力的に行ってきた再生医療として、2つの画期的な治療法があります。

「骨の中心にある骨髄細胞を利用して皮膚かいようを治りやすい状態にもっていくこと」と「皮膚の最外層（表皮）はその真下（真皮）からの影響を受けて、その場所にふさわしい皮膚へと再生すること（分かりやすく言えば、手のひらや足のうらが外からの刺激に強いぶ厚い皮膚である理由は、皮膚の下のほうの成分が皮膚の最外層をその場所にふさわしい皮膚にしているからであること）」を医療現場に取り入れています。最新の治療法についてできるだけ詳しく説明します。